

わが国近海に見られる浮遊性巻貝類—VII

裸殻翼足類

日本貝類学会名誉会長 奥谷 喬司 (Okutani, Takashi)

裸殻翼足亜目 (Gymnosomata) について述べる。我が国近海にはニューモデルマ科・クリオブシス科・ハダカカメガイ科・マメツブハダカカメガイ科の4科11種が確認されているが、映像のみで標本調査が行われているものは少数に留まり、下記の解剖学的特徴の記載は Pruvot-Fol (1942), Tesch (1950), Spoel (1976), Lalli & Gilmer (1989), 伊藤 (2013) などの過去文献に拠るところが多い。我が国近海からは今回解説する11種以外にも数種の映像が存在するが、まだ種名決定には至っていない。今後は情報の正確さを期するためには、採集標本の精査を必要とする。

ニューモデルマ科 Pneumodermatidae : 頭部触角を持ち、長い側鰓と後鰓がある。吸盤腕(口腕)を持つ。

トヨオカハダカカメガイ *Pneumodermopsis ciliata* (Gegenbaur, 1855) : 体長15 mm。体は細長い円筒形。頭部触角は長い。側吸盤腕の吸盤は7~8個、中央吸盤腕の吸盤は5個。中足葉は長い。側鰓は大きく先端は体表から離れる。体表を周る繊毛帯は成体まで残る。歯舌は3~7・1・3~7で中歯は2歯尖。歯舌列は18~25列。大西洋の記録があったが近年伊藤 (2013) によって日本海から発見された。

キノサキハダカカメガイ *Pneumodermopsis paucidens* (Boas, 1886) : 体長5 mm。体は細長い円筒形で、大型になると小色素斑点が出る。中足葉は短いが成長とともに伸びるといふ。側鰓の発達が悪い。中央吸盤腕の吸盤は5個で、最先端のものは著しく拡大し、基部寄りの2対は小型で長い柄に着く。側吸盤腕の吸盤は12。歯舌は2-1-2で中歯は2歯尖。歯舌列は12-22列で、側縁に6個の短小の棘がある。北大西洋と南西太平洋の記録があったが近年伊藤 (2015) によって日本海から発見された。

ヤサガタハダカカメガイ *Pneumodermopsis canephora* (Pruvot-Fol, 1924) : 体長12 mm。体は短く、頭部触角は発達している。2つの側吸盤腕には吸盤が

1個しかないが、中央吸盤腕には5吸盤があり、そのうち1個は拡大する。側足葉と後足葉は発達している。後鰓はないが、側鰓は長く、2条の繊毛帯が体を巻く。歯舌は3~5・1・3~5。日本近海の暖海域に稀ではない。

クリオブシス科 Cliopsidae : 体は大きく、中足葉は退化的。口円錐も側鰓もない。後鰓は六角形。

タルガタハダカカメガイ *Cliopsis krhoni* (Troschel, 1854) : 体長25 mm。体は樽型で淡紫色。翼足はやや小さい。中足葉は小さい。側鰓は無く、体後端の後鰓は六角。歯舌の中歯は三角形、側歯は4~6個で最内歯は他歯より大型。危険を感じると頭部と翼足を退縮させてボール状になる。全大洋の温帯。

ハダカカメガイ科 Clionidae : 体は紡錘形で側鰓を欠く。触角は小さい。口円錐を持つもの(ハダカカメガイ亜科 Clioninae)と持たないもの(ジュウモンジハダカカメガイ亜科 Thlipodontinae)がある。

ハダカカメガイ *Clione elegantissima* (Dall, 1871) : 体長40 mm。体は円筒形で後端は尖る。頭部触角は短く棘状。外套膜は半透明で縦走する筋条と内臓は透けて見える。中足葉と側足葉は短小。口円錐は3対。本種は亜寒帯水に多産し、南限は茨城県(稲葉・奥谷, 1999)。ミジンウキマイマイ *Limacina helicina* を常食とし、口円錐で捕らえると鉤足を出して、軟体部を食べる。従来あらゆる論文・図鑑には遍く *C. limacina* (Phipps, 1774) の学名が用いられているが、最近 Yamazaki & Kuwahara (2016) によって *C. limacina* は大西洋の種で、オホーツク海~北太平洋の種には上記の学名が当たることが明らかにされた。通俗名“クリオネ”。

ダルマハダカカメガイ *Clione okhotensis* (Yamazaki & Kuwahara, 2016) : 体長8 mm。体は樽型。頭部触角は接していて口との間隔は殆どない。翼足は小さい。口円錐は3対で短小。体の前部、中央、後端近くに体表を周る3繊毛帯がある。オホーツク海南部に前種と同所的に分布す

る。最近年に発見・記載された。

イクオハダカカメガイ *Paedoclione doliformis* (Danforth, 1907) : 体長5 mm。頭部触角は短小。翼足は丸みのある方形。口円錐は非対称で2対。頭部の後ろ、体の中央付近、後端に明瞭な繊毛帯を持つ。太平洋の温帯~冷水域。和名は最初に北海道近海で本種の撮影をした中村征夫氏が“イクオネ”と呼んだことから。

オタマハダカカメガイ *Paraclione longicaudata* (Souleyet, 1852) : 体長10 mm。体の後半は細長く、後端は尖る。体表・翼足に黒色斑点がある。側鰓はなく、後足葉は退化的。口円錐はハダカカメガイと同型で2対4本。歯舌の中歯は3歯尖で中歯尖は高い、側歯は成長とともに2個から6個までになる。日本近海の暖海には稀産。

ジュウモンジハダカカメガイ *Thliptodon diaphanus* (Meisenheimer, 1902) : 体長8 mm。体は透明で内臓が透けて見える。吻は太く口は漏斗状。頭部は弱くくびれる。中足葉は小さく不明瞭。翼足は長く籠形。胴部は水滴形で、後端は鈍く尖り環状の後鰓がある。全世界の温熱帯。

ヒョウタンハダカカメガイ *Thliptodon akatukai* (Tokioka, 1950) : BL 8 mm。体は丸みがあり皮層は透明で白点を散らす。吻は太く前部触角は短小。頭部はくびれ中足葉は小さい。翼足は末端が丸く広がり籠状。固定標本ではポケットに退縮している。胴部は膨れ透視できる内臓塊は体後端に達していない。体後端には鰓が繊毛状の輪をなす。鹿児島県と歌山県沿岸及び駿河湾で確認されている。*T. gengenbauri* との差は微妙。

マメツブハダカカメガイ科 Hydromylidae : この科は体は卵円形でやや硬く、不透明。翼足は長く先端はやや広がる。後足葉は長く細まり、側足葉は短く鈍端で前方を向く。中足葉は小さい。鰓を欠く。歯舌側歯は1本で中歯は半月形。1属1種。通常本科と Lagniopsidae 科の2科を真の Gymnosomata と区別して Gymnoptera 上科とされる。



マメツブハダカカメガイ *Hydromylus globulosa* (Rang, 1825) : 体長 8mm くらい。卵球形の体には白点が散在、半透明の皮層を通してオレンジ色の肝臓など内臓器官が見える。体を伸ばすと後足葉と側足葉は伸張し触角様。体周に二本の繊毛帯がある。刺激されると頭部も翼足も全ての足葉も外套膜によって前部にある横裂に退縮収納され全体は楕円体になる。また、終腸盲囊からインク（褐色の液体）を吐く。他の裸殻翼足類を捕食しているらしい。インド太平洋に広く南緯・北緯 50° くらいの範囲に分布し、本邦近海にも普通に見られる。

引用文献（第 I~VI 報に引用したものを除く）

稲葉暢弘・奥谷喬司. 1999. 茨城県大洗マリーナ（北緯 36°20'）に出現したハダカカメガイ。ちりぼたん 29 (3) : 47-49.

1. トヨオカハダカカメガイ *Pneumodermopsis ciliata*
2. キノサキハダカカメガイ *Pneumodermopsis paucidens*
3. ヤサガタハダカカメガイ *Pneumodermopsis canephora*
4. タルガタハダカカメガイ *Cliopsis krhoni*
5. ダルマハダカカメガイ *Clione okhotensis*
6. イクオハダカカメガイ *Paedocliione dolliformis*
7. ハダカカメガイ *Clione elegantissima*
8. オタマハダカカメガイ *Paraclione longicaudata*
9. ジュウモンジハダカカメガイ *Thliptodon diaphanus*
10. マメツブハダカカメガイ *Hydromylus globulosa*
11. ヒョウタンハダカカメガイ *Thliptodon akatukai*

(1, 2, 8 撮影：伊藤公一；3, 9, 11 撮影：西巻唯史；4 撮影：藤原秀一；6 撮影：中村征夫；7 撮影：山崎友資；10 撮影：峯水 亮)

伊藤公一. 2013. 日本海西部海域但馬海岸で採集された裸殻翼足目について。うみうし通信 (78) : 2-3.

伊藤公一. 2015. 日本海西部海域の但馬海岸で確認されたニューモデルマ科の 1 種キノサキハダカカメガイ（新称）。Venus 73(1-2) : 89-90.

Pruvot-Fol, A. 1942. Les Gymnosomes I. Dana Report, 20: 54 pp.

Tesch, J.J. 1950. The Gymnosomata II. Dana Report, 36. 55 pp.

Yamazaki, T. & Kuwahara, T. 2016. A new species of *Clione* distinguished from sympatric *C. limacina* (Gastropoda: Gymnosomata) in the southern Okhotsk Sea, Japan, with remarks on the taxonomy of the genus. *Journal of Molluscan Studies* (2016) : 1-7.